

編集後記

気がつくとは私は、狭い地下室に閉じ込められていた。鉄の扉は硬く閉じられ、叩き続けても叫び続けても助けは来ない。「何時間たっただろう。だんだん息が苦しくなってきた。意識が遠退いていく。助けてくれ。もう駄目だ」……その時目が覚めた。妻の顔が見える。「いびきうるさい」と言いながら私の鼻をつまんでいた。実話です。鼻をつままれていたのはほんの1~2秒のことらしいのですが、その間に数時間分の夢を見ていたことになります。夢というのは不思議なものです。

今月号の特集は「小児の閉塞性睡眠時無呼吸症候群」です。成人でも大変問題となっている疾患ですが、小児期は扁桃が生理的に肥大することもあり、肥満児ばかりでなく、しばしば経験する疾患です。情緒・行動異常、集中力低下、学力低下、不登校などの原因にもなり得る病態であり、十分注意が必要です。耳鼻科のご協力が必要となることも多いですが、小児科としても早期に適切な治療が望まれます。病態、診断、治療、心血管障害の合併、肥満との関係について詳しく解説いただいています。日常診療の一助となれば幸いです。

「綜説」では4つの話題をご提供いたします。20年前にエコーウイルスから新たに分類命名されたヒトパレコウイルスによる流行性筋痛症について、つ

いで外傷や疼痛体験を契機として発症する謎多き病態、複合性局所疼痛症候群（CRPS）について、また現在の小児敗血症の考え方とその臨床について、さらに小児・AYA世代のがん患者における妊孕性温存について、それぞれの専門家に解説いただいています。「診療」では3つの話題です。小児摂食障害における早期発見と包括的治療の必要性について、インフルエンザ菌感染症における莢膜血清型と臨床像について、小児の肺炎と急性呼吸促進症候群（ARDS）について詳述していただいています。「症例」では、慢性再発性骨髓炎（CRMO）との異同が論じられている Garré 骨髓炎の1例、精神症状が先行した急性散在性脳脊髄炎（ADEM）の1例、「目で見える小児科」では近頃人気の果物、ドラゴンフルーツによる鮮紅色尿が取り上げられています。印象的な鮮紅色です。連載企画「小児臨床教育の実際」第9回は、日本小児科学会指導医講習会の現状と今後についてです。

睡眠時無呼吸といえば世間では私のような「メタボのおじさん」のイメージですが、小児でも決して珍しくありません。ただし冒頭のお話はあくまで人為的無呼吸……だと思います。

（伊藤 保彦）

編集：伊藤保彦・河野陽一・中西敏雄・岡部信彦・高橋孝雄（ABC 順）

小児科

第60巻 第10号 9月号
2019年9月1日発行（毎月1回1日発行）
定価（本体2,700円＋税）

年間購読料金
定価（本体42,100円＋税）
〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕
〔年間予約購読者に限り送料無料〕
※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社
発行者 福村直樹
〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14
Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕
Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕
Fax 03(3813)0288
<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>
振替口座 00130-1-191269
印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005
広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。